

# 11月・12月の主な研修 【動画】：開始日(10:00) 終了日(17:00) 以外は、24時間視聴可

- 認知症ケア研修「若年性認知症の理解と支援」  
R6.10.22(火)～11.22(金) **【動画】** 講師：駒井由紀子氏
- 福祉職のキャリアアップ講座(共通)  
「世田谷版地域包括ケアシステムを学ぶ  
～誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指して～」  
R6.10.21(月)～11.18(月) **【動画】** 講師：和気純子氏
- メンタルヘルス研修「依存症の基礎知識」  
R6.11.1(金)～11.29(金) **【動画】** 講師：常岡俊昭氏
- 介護予防ケアマネジメント研修(現任)  
R6.11.1(金)～11.15(金) **【動画・集合】** 講師：松原徹氏  
R6.11.26(木) 14:00～16:30  
R7.1.29(水) 14:00～16:30
- 福祉職のキャリアアップ講座(共通)  
「チームアプローチと多職種連携について」  
R6.11.13(水) 14:00～16:00 **【集合】** 講師：三木真生子氏
- ケアマネジャー研修実践力向上【現任】「事例演習」  
①R6.11.13(水)～12.9(月) **【動画】**  
②R6.12.16(月) ③R7.1.17(火) **【集合】** 講師：江口志乃氏
- 信頼関係を築くための接遇・マナー向上研修  
「ワークで学ぶスピーチロックを防ぐための  
介護の接遇・マナーと実践」  
R6.11.21(木) 14:00～16:00 **【ライブ】** 講師：蜂谷英津子氏
- 産前・産後訪問支援事業委託事業者ヘルパー研修  
「乳幼児期の栄養と食生活」  
R6.11.28(木) 14:00～16:00 **【集合】** 講師：川上里奈氏
- 高齢・障害支援力向上Sofuku講座「作業環境の工夫」  
R6.11.21(木) 18:30～20:30 **【集合】** 講師：関典子氏  
紫尾田リエ氏
- 認知症ケア研修アセスメントの意義とポイント<事例検討>  
R6.12.2(月) 14:00～16:00 **【集合】** 講師：市川裕太氏
- 食支援研修  
「レシピを増やそう！  
利用者宅にあるいつもの材料で作るおかず」  
R6.12.12(木) ①10:00～12:30 **【集合】** 講師：竹内洋子氏  
②14:30～17:00 小林千晴氏
- 医療的ケア児への支援研修「小児在宅療養者のケアと家族支援」  
R6.12.13(金)～1.14(火) **【動画】** 講師：五十嵐薫氏  
横田益美氏
- 訪問介護の就労支援講座第3回  
R6.12.14(土) 14:00～16:00 **【集合】** 講師：武田朋子氏
- 地域包括支援センター職員研修(管理者)  
あんすこ管理者としての職員のメンタルサポートについて  
R6.12.9(月) 13:30～16:30 **【集合】** 講師：浅見大紀氏  
※詳細は研修センターホームページ、公式X、Fax情報等でお知らせします。

# 世田谷区福祉人材育成・研修センター だよ

## じんざいくん便利

令和6年 10月 第27号

### 夏休み福祉体験2024

7・8月の7日間にわたり、「小学生親子・中学生・高校生  
夏休み福祉体験」を開催しました。  
特別養護老人ホームの取組みや、ユニバーサルデザイン、  
リハ・スポーツ、車いす・介護ベッド・ボッチャ体験を  
実施しました。

約400名の方にご参加いただき、誰もが「幸せ」に  
くらしを暮らすことについて、みんなで福祉について  
考えるきっかけとなりました。

学んだことを福祉クイズで確認!!

車いすで自販機を使ってみました。

介護ベッドも進化しているな～!

パラスポーツボッチャは、椅子に座って!けっこう難しい!

<参加者の声>  
・福祉についてもっと知る必要があると思った。  
・介護をする人される人の立場になって、様々工夫されていることがわかった。  
・福祉についてもっと知りたくなった。  
・夏休みの自由研究にしてみます!

修了証授与式の様子

## せたがや福祉区民学会第16回大会

皆さまのご来場をお待ちしております

**【大会テーマ】「多様な人々をつなぐ運動・スポーツの可能性」**  
**【日時】** 令和6年11月9日(土) 12時～17時30分(開場 11時30分)  
**【会場】** 日本女子体育大学 本館・東館  
(世田谷区北烏山8-19-1)  
**【内容】** ◎基調講演 「運動・スポーツでつながる地域の輪っはは!!」  
雨宮 由紀枝氏(日本女子体育大学 体育学部 名誉教授)  
◎実践研究発表 67事例(口頭発表 56、ポスター 11)  
◎ワークショップ 「笑顔の輪を広げる みんなのスポーツ」  
◎大会プラス ・「KAIGO PRIDE@SETAGAYA」写真展  
・世田谷区内障害者施設による展示販売  
・介護の魅力PR事業

**【参加費】** 500円  
※お車でのご来場はご遠慮下さい。公共交通機関をご利用下さい。

**【懇親会】**  
18時～19時30分  
会場：日女体 学生会館2階  
参加費：2,000円(学生1,000円)  
申込：下記電話または申込フォーム

**【研修センター公式Xフォロワー募集中!!】**  
区内事業者・受講者・区民の皆さまに研修センターの情報を公式Xを通して、お手持のパソコンやスマホへお届けします。最新の研修案内が手軽に確認できます!是非ご登録ください。

発行：世田谷区福祉人材育成・研修センター  
〒156-0043世田谷区松原6-37-10  
世田谷区立保健医療福祉総合プラザ1階  
電話：03-6379-4280  
FAX：03-6379-4281  
HP：https://www.setagaya-jinzai.jp/



### 在宅療養講演会・シンポジウム

住み慣れた地域で最期まで安心して暮らし続けるために

令和6年9月28日(土)  
世田谷区立保健医療福祉総合プラザ

在宅療養講演会・シンポジウムを開催しました。ACP(人生会議)についての基調講演や、医師をはじめ、多職種の方や当事者ご家族の話を通して、地域で最期まで安心して暮らし続けるための「備え」を考える機会になりました。

**「私の場所で『生きる』ためのACP」と題して、「医師が患者になった時」の自身の体験も交え、当事者の立場による不安や想い、支援者に望むことを向山晴子先生にご講義いただきました。**

【基調講演より】キーワードは「私は」  
病気になる時、意思表示が難しくなった時、どんなことをしてほしいか、してほしくないか、最期まで暮らしたい場所はどこか。「私はこんな風に過ごしたい」ということを、人生の節目に、ぜひ話し合ってみてください。支援者の方へのお願いです。支援者にとっては100例目の症例でも、当事者である「私」にとっては初めてのこと。揺れる心や迷う思いなど、信頼して出された言葉をしっかりと受け止めてほしいです。

向山晴子 世田谷保健所長

80名の方にご参加いただきました。

コーディネーター 当事者ご家族 訪問看護師 ケアマネジャー 訪問介護  
小原正幸先生 芦田雅子氏 大原昭江氏 桑原典江氏 羽柴若菜氏

【小原先生】周囲の人々に治療を含めた希望を伝えることで、満足した最期を迎えることができます。  
【芦田氏】専門職の方々力を借りながら、自宅で最期を安らかに見送れたことに感謝しています。  
【大原氏】ご本人の生き抜く姿を見届け、命のバトンを受け継ぐことの支援が看護師の役割です。  
【桑原氏】専門家の知識を活用して問題を解決することで、安心して最期を迎えられるように支援します。  
【羽柴氏】生活や身体の状態の把握に努め、日々の関わりと信頼関係の構築がACPIに繋がると感じています。

**参加者の声**

- 使えるサービスを知ること(情報収集)が必要だと思いました。(50代)
- どのような最期を自分は迎えたいのか、きちんと考えておこうと思った。(70代)
- 専門家の協力が得られることがわかり、安心感が増えました。(70代)
- 地域の人々のつながりを強くすることが大切だと思う。(80代)

在宅療養講演会・シンポジウムは11月1日(金)～3月31日(月)まで研修センターホームページで動画視聴できます。

# 研修ピックアップ

## ひきこもり（8050問題）の理解・支援力向上研修 【動画研修】

～ひきこもりの理解と支援について～

視聴期間：令和6年9月12日（木）～10月10日（木）

ひきこもりとは、様々な要因によって社会参加を回避し、長期にわたって家庭にとどまり続けている状態を指します。ひきこもり状態にある人のいる家庭は全国に26万世帯にのぼると推定されており、ひきこもりの長期化、家族と本人の高齢化が問題となっています。本研修にて、ひきこもり問題について理解を深め、本人や家族の孤立を防ぐためにはどうすればよいのか、日々の関わり方や家族の支援方法を事例から学びました。

**講師：青木 千穂 氏**  
世田谷区  
保健福祉政策部  
生活福祉課

**講師：足立 千啓 氏**  
世田谷ひきこもり相談窓口  
「リンク」  
メルクマールせたがや

**講師：小幡 泰江 氏**  
世田谷ひきこもり相談窓口  
「リンク」  
ぶらっとホーム世田谷

### その①：ひきこもりの理解

- 「ひきこもり」とは病名ではなく状態を指すもの
- 「ひきこもり」は3つに分類される

**社会的ひきこもり**

- 概ね6か月以上…
- 自室から出ない
- 自室から出られるが家から出られない
- 近所のコンビニには出かける

趣味の用事のときだけ外出する

### その②：8050問題について

**8050問題とは？**  
80歳代の親と50歳代のひきこもりの子が同居する家族の問題

◆ 親と同居する未婚者数は増えている…

総務省統計研修所の「親と同居の未婚者の最近の状況（2016年）」によれば、親と同居する壮年未婚者（35～44歳）は、1980年の**39万人**から2016年には**288万人**へと**7倍以上**に急増しています。

親の高齢化による心身能力の低下を子が受け入れられず、子から親への暴力に発展します。

◆ **8050問題の解決は家庭全体を支えること…**

親子の生活の質の向上のために、高齢の親への支援から、ひきこもりの子への関わりどころを探していきます。親亡き後の経済面など、**親子が共に不安を感じる困りごと**は、関わり方のチャンスになります。

**高齢者虐待！**

### その③：世田谷区の支援体制

- 相談窓口の明確化、支援機関相互の連携強化
- 当事者・家族それぞれの課題やニーズに寄り添った、きめ細やかな支援の充実
- ひきこもりへの社会的理解及び支援者育成の促進

**世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」**

年齢を問わず、ひきこもり当事者の方や家族を支援する相談窓口。生活困窮者支援を手掛ける「ぶらっとホーム世田谷」と若年層の引きこもり相談を担う「メルクマールせたがや」が連携して運営しています。

太子堂4丁目 STKハイツ  
東急世田谷線「三軒茶屋駅」徒歩2分

5階	世田谷若者総合支援センター	メルクマールせたがや（若者の悩み相談）
4階		せたがや若者サポートステーション（働くことや準備についての悩み相談）
3階	ぶらっとホーム世田谷	ひきこもり相談窓口「リンク」
2階		開設日時/月～金(祝・休日、年末年始を除く) 午前9時～午後5時 ☎5431-5354 FAX5431-5357
1階	図書館カウンター三軒茶屋	

### その④：架空事例から学ぶ 長期ひきこもりへの支援策について

**<家族状況>**

- **父（80代）**：会社人間だった。息子が仕事を辞めた時に我慢が足りないと言ったことから息子の暴力が始まった。要支援1で、急速に認知機能の衰えが出てきている。
- **母**：約10年前に死去。家族の支柱的存在だった。
- **長男（兄 50代）**：大学卒業後就職したが、職場に馴染めず2年で退職。その後、ひきこもるようになった。仕事を辞めた時の父親の無理解を今でも許せず、部屋からはほぼ出ない状況。
- **長女（妹 40代）**：大学入学と同時に家を出て、現在は結婚し別世帯。区内に住むが、実家への行き来はなく、たまに父と連絡をとるくらい。

**アンケートより(一部抜粋)**

引きこもり(8050問題)について、現在の課題やどのようなケースがあるのか、どんな所に相談できるのかなどを知ることができ、現状に触れる事ができた。

**【支援経過】**

- ・父のデイサービス費用の滞納あり、長女に包括から連絡入り**リンク**に繋がる。
- ・約30年ぶりに、支援員と長女が実家に足を踏み入れ、実家の現状を知る。
- ・実家はゴミ屋敷となっており、未開封の支払い関係の書類が散乱していた。

**それぞれの思いは…**

- 高齢の親**：認知症が進んだらどこに住めば…娘には迷惑をかけたくない 食事の準備や片付けに困ってしまう
- ひきこもり状態の長男(兄)**：一人で暮らしたい もう今から人生どうにもならない このままではいけないという気持ち 不安で物が捨てられなくて困る
- 長女(妹)**：自分の家族には迷惑をかけたくない 本当はもう実家に関わりたくない 兄は可哀想だが、許せない気持ちも

**必要な対応は…**

- ・通院同行し医師と現状共有
- ・要介護認定の申請
- ・特養申込手続き
- ・各種支払い
- ・通院治療（ためこみ症など）
- ・障害手帳の取得
- ・非課税手続き
- ・転居支援、部屋の片づけ
- ・活動の場を設ける
- ・後見人申請手続き
- ・実家への関わりで生じる、不安定な気持ちをサポート

## 医療的ケア児への支援

～小児在宅療養を支える訪問看護と多職種連携～

【ライブ研修】

開催日時：令和6年10月5日（土）

医療の進歩とともに、医療的ケアを必要とする小児在宅療養者は年々増加傾向となっています。世田谷区における医療的ケア児を取り巻く現状と取り組みや疾患と症状の理解、機能訓練の実際、多職種連携による支援の方法について学びました。

### 世田谷区の制度と医療的ケアを必要とする在宅小児療養者の現状

区内に医療的ケア児はどれくらいいるの？

母子保健活動により把握している人数と特別支援学校等に通う生徒数を合わせて

**194人**  
(R5年4月現在)

どの様なサービスが受けられるのかわからない。

家族からの要望…との声を受けてガイドブックを発行

ショートステイや放課後等デイサービスを増やしてほしい。

介護や看護の代わりをお願いできる人がいない。

医療的ケアが必要なお子さんのためのガイドブック

### 在宅小児療養者に多くみられる疾患と症状の理解

**医療的ケア児の健康状態の判断の難しさ**

- ◆ もともと基礎疾患を持っているために、健康状態の判断が難しい。急激に状態が悪化することがある。
- ◆ 発達、病態の変化により普段の状態も変化する。
- ◆ 子どもであることに加え、まれな疾患であることも多く、病気、病態が一人ひとり異なるため全体像を把握することが難しい。
- ◆ 健康判断のためには、普段からその子どものことをよく知っておき、経験値を積むことが求められる。

支援したいけど負担だけが大きい

不安な自分を支えてくれる人は誰？

万が一のことが心配

それなら、一番よく知っている親に聞いたらいいんじゃない？

医療的ケア児はケアできない。関わりたくない。

### 多職種連携による在宅小児療養者に向けた自立支援

小児在宅リハビリテーションの役割

- ◆ 「機能回復」というよりも「発達支援」である。
- ◆ 当事者のライフステージごとに随時・適質・適量の支援が求められる。

その子が**何をしたい(主体性)**、**どうしたら挑戦できる(安全性)**、**その子らしい方法でできる(自立)**かを考える。

医療的ケア児が使う医療・福祉サービスって？

多職種連携の方法

- ◆ カンファレンス
- ◆ 所内、多施設例)退院前、就学・通園に向けて、家族支援
- ◆ 通学支援
- ◆ 勉強会 など

MCSや電話などを活用して情報共有を行います。

### 相談支援体制と支援の実際

医療的ケア児 家族の思い

- ◆ 子どものつらい姿は見たくない
- ◆ 家に連れて帰りたい、でも…
- ◆ 私のせいで
- ◆ これ以上苦しませたくない
- ◆ うちの子にかぎって
- ◆ 代わってあげたい
- ◆ 奇跡が起きる
- ◆ 子どもが望むことをしたい

日々の業務の中で医療・福祉制度などに関して相談を受けて困った時、関わっている子どもや保護者に対する接し方に悩んだ時、誰に相談をしますか？

相談支援専門員、医療的ケア児等コーディネーターを活用してください。

相談支援専門員との連携 (訪問看護ステーションの声より)

- ・ 関係機関との連携がスムーズになった。
- ・ 家族との関係構築のフォローをしてもらえて助かっている。
- ・ サービス提供時間、サービス内容を調整してくれて助かっている。
- ・ 福祉制度やサービス内容などに関する情報提供をしてくれる。
- ・ 利用者さんの在宅生活のことを良く知っている人がいることでの安心感。

医療的ケア児への支援研修<2回>～小児在宅療養者へのケアと家族支援～【動画研修】は12月開催予定です。